

平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	紙のタイムマシン活用事業
事業主体 (連絡先)	塩尻市 総務部庶務課施設管理係(0263-52-0601) 小松
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業 オその他個性を活かした産業振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	1, 110, 926円 (うち支援金: 632, 000円)

事業内容

地元を代表する企業であるセイコーエプソン社が世界に先駆けて開発した、オフィス内製紙機「PaperLab」の実証実験に協力し、製品発表後、2台導入を導入し運用した。

1. 環境保全に取り組む自治体であることを全国に向けてアピールした。
2. 小学生の社会見学の際に同製品を紹介した。
3. 庁内の古紙回収及び分別を障がい者団体に委託する、障がい者の就労支援や自立支援の充実に繋げた。



【PaperLab
(保健センター設置)】

【目標・ねらい】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1. 商品発表や市への導入時等の機会に多くの報道がされ、塩尻市をPRできた。また、全国の自治体から視察が訪れた。
2. 小学生の庁舎見学の折に同製品を紹介したところ、高い関心と驚きを持ってもらった。
3. 障がい者団体に古紙回収及び分別を実証実験の開始とともに委託したところ、多くの障がい者が就労の機会を得た。

- ①紙資源の有効活用
- ②障がい者雇用の促進
- ③市民等の環境意識向上
- ④塩尻市のPR

※自己評価 【B】

【理由】

エプソン社による同製品の開発の遅れがあったものの、実証実験に協力し、当初の目標は達成した。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- 1 オープンな場所に機器が設置されているため、市民や小中学生等多くの方に見学及び体験ができる機会を増やす。
- 2 機密文書を処分、再利用することで情報セキュリティの高い自治体であることを市民に広くアピールする。
- 3 庁内会議資料、各種申請書及び名刺等、幅広い紙の活用方法を模索する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある